

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第 146 号

2013年9月30日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：原谷 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

—8月31日（土）大雨と雷のため中止と考えましたが参加者12名とも「是非維持管理」をと申し出ありましたので溜池のカナダ藻の駆除と水路の土手の草刈を行いました。

11時過ぎ雷がひどくなり危険なため、作業を中止し、会報の事や工具小屋の増設について協議しました。

—9月18日（水）14日に吉富会員・原田事務局長で駐車場の残った部分の草刈りを行い、18日に処分しました。

—9月21日（土）親子自然観察隊は、「秋の昆虫観察」で、ビオトープ他、昭和山遊ロードにて昭和山まで足をのぼし、秋の昆虫観察をしました。小学校の運動会の準備や本番のため参加者が少なかったですが、その分細部にわたって昆虫の生態の勉強会となりました。指導者12名、観察隊は3家族（親隊員を含め3名と子ども隊員5名）でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

予定は入っておりません

◎行 事

—10月6日（日）維持活動（エコアップ、ビオトープ全域草刈作業）

稲刈りのための準備（排水溝掘り起こし・周囲の草刈）

—10月19日（土）稲作体験「親子自然観察隊」「二俣瀬子ども会」参加による稲刈り

3. 来訪者の声

—9月15日—

子どもについて来たら心が癒されました。マイナスイオンの自然を守り続けてください

宇部市 mariko

4. 会員の声【 子供のためのスタディツアーに参加して 】 （ 管 哲郎 記）

（平成25年度スタディツアー推進事業 宇部市地球温暖化対策ネットワーク主催）

宇部市、水俣市、対馬市の3市は、環境問題の啓蒙啓発の一貫として、まず子供たちの交流を図ることより始め、今年7月1泊2日で宇部市より水俣市へ、8月に2泊3日で対馬市へとスタディツアーを行いました。

参加した宇部市内の小学生生徒の中に、里山ビオトープ二俣瀬の親子会員の中より1名の出席者があったことと、主催者である「UNCCA」より、保護者のいない子供たちの世話系として里山ビオトープ二俣瀬会員に参加を要請されたことなどから、会員である管1名が出席し、保護者のいない男女生徒8名の子供たちを添乗員やUNCCAの職員の方々の協力をいただきながら、お世話させていただきました。

旅行参加者は宇部市環境政策課より2名、UNCCA担当者3名、宇部市交通局添乗員1名、里山ビオトープ二俣瀬より管が参加し、小学生では西宇部小学校生徒4名（内2名の保護者）、黒石小学校より3名（内保護者1名）、常盤小学校より1名（保護者1名）、川上小学校より4名の生徒でした。

尚、案内は対馬市自然環境推進室より室長と係長の2名での対応でした。

スタディツアーの目的：

自然に親しみ、ぼくたち、私たちが住む『環境』というものの大切さを改めて考えることや、集団で行動する中で友達の輪を広げるとともに、人に迷惑をかけずに行動することの大切さを学びました。（見学时、ホテル内、食事中、入浴時などでの注意とマナーなど）

*対馬の現状や歴史を学びました。

*ツシマヤマネコの痕跡調査、保全保護活動の様子、ツシマヤマネコ”福間くん”見学。

*韓国、中国などよりの漂着ゴミの種類や状況の見学を行いました。

研修のなかでもNHKテレビに出演され紹介されたツシマヤマネコ研究者、琉球大学の茂木（もてき）周作先生に、ツシマヤマネコの追跡調査の実施指導や生態のお話などを午前中、直接指導していただき全員感激でした。先生はこの暑さの中、午後より追跡機器を持って山に入り、ツシマヤマネコの追跡調査をされるそうです。

案内役の玖須係長さんも親切で優しく博学で、暑くて大変でしたが、楽しく学習することができましたし、夕食では対馬の名物料理”対馬とんちゃん”と”海鮮料理”をごちそうしていただき、旅の疲れが癒されました。

帰りの厳原（いずはら）港岸壁では、これまでご案内しお世話していただいた対馬市役所の玖須係長へお礼の挨拶を6年生の男子に急遽お願いしたところ、臆することもなくスラスラと立派に挨拶してくれたことが私たち引率者にとって大変うれしい出来事でした。

研修最終日、3日目の朝は大雨で、わずか50km先の”韓国”大陸の姿は残念ながら観られませんでしたが、2日間のスタディツアーはお天気にめぐまれ、主な目的はしっかり果たして、暑さの中事故もなく全員元気に帰ってまいりました。



出発前スタディーツアー参加者全員で記念撮影



センサーを撮影する生徒たち



ツシマヤマネコ” 福間くん” お昼寝中でした。↑

茂木先生 ↓



棹崎海岸公園にて外国よりの漂着ゴミの勉強をおこないました



5. 親子自然観察隊 「 秋の昆虫観察 」

晴天が続き、そろそろお天気の崩れが心配でしたが、今日も良い天気恵まれて、秋晴れの中気持ち良く昆虫採集を行いました。

運動会シーズンと重なって子供たちの参加が少なかったため、今回は採集した昆虫を、親子で名前調べを行っていただきました。チョウ、トンボ、バッタ、カマキリなどバラエティーに富んだ昆虫たちが採集され、みんな図鑑とにらめっこ、自分たちの採集した昆虫をうまく探し当て、無事すべての同定を終えました。

特にトンボでは図鑑と色が違っていたり、わずかな模様や形の差で見分けなければならず、

上級生でもてこずったようで、勉強になったと思われます。大きなスズメバチも飛び回っていましたが、事故もなく無事観察会を終了しました。

その他、カエル（ツチガエル、アマガエル等）も採集しましたが、記録しませんでした。
<本日確認された昆虫類>

1. **チョウ：12種類** ナミアゲハ、クロアゲハ、キタキチョウ、モンキチョウ、メスグロヒョウモン♂、ヒメウラナミジャノメ、ムラサキシジミ、ムラサキツバメ、ゴイシジミ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、イチモンジセセリ。

2. **トンボ：13種類** ベニイトトンボ、アオモンイトトンボ、アジアイトトンボ、ハグロトンボ、タカネトンボ、オニヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、ヒメアカネ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ。

3. **バッタ、キリギリス類：8種類** トノサマバッタ、クルマバッタ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、イボバッタ、クダマキモドキ、エンマコオロギ、ハネナガイナゴ。

4. **カマキリ：2種類** オオカマキリ、コカマキリ。

5. **その他：4種類** テントウムシ、ツマグロオオヨコバイ、アリジゴク、ホタルガ。



昆虫採集のようす



図鑑で名前を調べる

管 哲郎 記

親子自然観察隊（9月21日 秋の昆虫）に参加した親子の感想

★大西駿登くんの感想

トンボ、バッタ、コオロギ、蝶々と色々な虫を採って楽しかったです。なかでも楽しかったのは、オニヤンマを一生懸命追いかけたことです。他のトンボと違い、とても早く真っ直ぐに飛ぶので、なかなか捕まえることができませんでした。

あと、先生が捕まえたイシガメが可愛かったです。みんなで観察したら恥ずかしかったのか暫く動かなかったです。イシガメは、昔から日本にいるかめで、絶滅の危機だと知りました。ビオトープには自然が残っていることを感じました。



★金子揮壱くん

人数が少なかったけど、楽しく活動できました。昆虫の種類などもしっかり調べられたのでよかったです。

★金子揮壱くんのお母さん

今回は参加人数が少なく最初は寂しく感じましたが、昆虫採集が始まると和気あいあい楽しむことができました。また、捕まえた生き物をじっくり観察し、図鑑で調べ確認でき、実のある内容に満足でした。ありがとうございました。中学生の息子が久しぶりに参加しまし

た。本人は、できれば毎回参加したいのですが、部活があると、やはり部活を優先してしまうようです…。

こういった観察会や体験会、野外活動などは、小学生に限られているものも多く、中学生になった途端、機会が減ってしまう中、この親子観察隊は幅広く受け入れてくださるので、とてもありがたいです。

★下川拓実くん

図鑑で調べたら、いろんな種類がのっけていて調べるのが大変だった。虫取りはとても楽しかったです！

★下川くんのお母さん

トンボだけでもたくさんの種類がみつきり驚きでした。参加者が少なかったため、採集も図鑑で調べる作業も先生方がじっくりみてくださり有り難かったです。

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(9) アオビタイトンボ *Brachydiplax chalybea flavovittata* Ris

トンボ科 アオビタイトンボ属

もともと、南方系のトンボで、2010年の夏の終わりごろ、「山口むしの会」により、宇部市のため池で初めて発見されました。それ以来2012年までに山口市、下関市、山陽小野田市よりも発見され、県内のため池でどんどん棲息数を拡大しているものと思われます。それまでは鹿児島県や北九州で確認していました。

山陽小野田市のため池では、昨年の調査で、♂♀合わせ100頭以上の成虫を確認しました、いずれ植生豊かなため池に姿が見られることでしょう。温暖化の影響でしょうか？

シオカラトンボの仲間、一回り小さくかわいいトンボですが、シオカラトンボそっくりなので、うっかりと見逃してしまうかもしれませんね。6月より羽化を始め、10月ごろまで見られます。額が金青色に光り、“アオビタイ”の名前の由来のようです。メスは体長3センチほどで黒に黄色の縦じま模様の美しくかわいいトンボです。

筆者も2012年の初夏にようやく本種の羽化撮影に成功しました。夕暮れ時から明け方まで、少々の雨でも平気で羽化しますので、真夜中、雨の中の撮影は大変でした。



アオビタイトンボのオス



アオビタイトンボのメス



オスの羽化



メスの羽化終了間際

7. 会よりの連絡事項（事務局より）

(1) 毎年ビオトープの維持管理が追いつかず、湿地帯、ため池ゾーンなどうっそうとなつて来ました。

活動日の参加者も減少しておりますし、ちょっとした明いた時間があれば草刈りなどは自主的に行っていましたが、寄る歳なみに勝てずちょっとした事が出来なくなりました。

次回10月6日(第一日曜日)の活動日には横の誘い合わせを願って多数をご参加をお願いします。

8. 編集後記

今年の夏は異常気象でしたね。全国的に猛暑に豪雨、それに竜巻が発生したりして。山口県でも7月末に集中豪雨が降りました。私はその日、あるボランティアで秋吉台に行きました。県下に大雨洪水警報は出ていましたが、秋吉台はさほどの雨ではなかったので、予定通り秋芳洞にも入りました。しかし、あとからラジオで、萩や須佐の一部の地域で「かつて経験したことのない大雨」が降り、気象庁は「ただちに命を守る行動を」と呼びかけていたことを知りました。悪天候での判断は、一歩間違うと大変なことになります。運営する側の責任の重さを痛感させられる経験になりました。

私たちの会では10年以上も活動を続けていますが、事故という事故は起きていません。これはひとえにボランティアを運営している主だったメンバーの配慮のおかげだと思います。のびのびと自然を満喫できて、かつ、事故の起きないように。私はつくる会を通して、みなさんから多くのことを学ばせていただいています。そして、それは目には見えないけれど、大切な“心の財産”になっています。お金の財産は減る一方ですが、“心の財産”は、確実に増えていると思います。この会の一員として、開設当初から関わらせていただいていることをうれしく思います。

(中本 亜矢子 記)